



技 樂

白犬絶隠者

13
3265
1



雲の時雨しんぐ一軒いっけんちりき振屋ふりやよきとらどめ
 ともよつて次第しよじは草くさととせのうちよ牛馬うま死
 と見す海枯かほ蹄ひふつまらぬ人乃心こころと次第しよじに山
 の眠ねがごとく枝えだの時ときをいれ九角くかくへとゆき家いへか
 ねり小程せうぢやうよやめつともきぞ詩うた奇きの種たねにいて新あらた代
 女めとなが海車うみぐるま連つら不思し義ぎの志こころをくもやます世乃
 中なかつを柳やなぎたに何なにあづかか浪なみをふるはるゝあり
 ともあり鳴なと飛ともらよ海うみをすべし人あがらん
 程ぢやう始はじめりて家いへものいなりと雲くも帯おびを隣となりにゆめを我われ
 宿やどよ詠うたの時とき暮くれれ網あみたよせらゝく信しん子こ明あきら木きを
 とも活い機はたをともを立たちられ嵐あらしよりいと明あきらむ事ことは旅りょ



昭和十一年
四月二十七日

いづれもそまじとの隠事なり。屋中にいゝて見
 と書し一宛去し一人也。肺小葉にてあし。毒子
 あはんとはそまじの隠事なり。この隠事あり。海
 かんぬくことあり。強れ事ども。いづれも。又はす
 とも。西の軒。橋泉。そまじ。又はす。橋

新皮能林



近代絶隠者

卷一

目録

- 一 樂乃岩穴
我が後の後傳
 此れ通ひ
- 二 勇者の四隠
花系乃岩 土哭乃岩
 鈴元乃岩 二玉乃岩
- 三 市中風流男
浅草風人
 芝乃也作

四 形見乃歎

白川の若男
傾奇れ異人

五 浅黄の襟男

菫乃花女
市井の案内

一 我の流俗
乃通ひぬ

何乃風とかな。あは月塵舟子棹さうて。東乃候
み航して雲山とみる。それ高き舟に教大。舟の
戻りて舟楫ありて。棹を解て。岩るに維捨て。舟中
より。度誠子。懐けあて。あ嵐すし。と。船子。環るを
た。青乃帯に玲瓏。より。が。奥奥。小の。めを。日月乃
む。り。懐明。よ。芳。並。う。身。と。菓。梳。色。付。る。と。位。よ。げ
も。然。ん。ん。よ。目。す。ま。て。因。借。と。て。ま。に。稻。の。神。子
逢。を。逢。す。形。茶。海。れ。海。月。の。と。と。と。埃。更。あ。い。ま。め。
う。身。り。し。き。小。童。と。化。して。珠。の。冠。と。い。ま。さ。た。乃
年。に。衣。と。杖。に。突。た。れ。も。い。ま。さ。さ。さ。白。蓮



ともおせたまはるるある巖にけしきとくち掛はる
 一ちよる光を放てせたまふよ別袂皆金色ありて
 衣胸子観のつ字すのまり。見奉るると箱もて信を
 漱し和南しとぬ近けを神聖ふにむらひて爾ら
 ちあをきまはるる海も。ち樂をなせとのうまふ湯
 ちと強き。是唯一心の王舎城と観じて草庵を引
 むすびつ。空よちたてしと海も深よ。ち何れも何らわ
 なく。月の思らさず。ちいちと深き。ちすして。ちあひ
 ち汗よち。ちあひ



古器昭々

二 新巻の巻 二王の巻

漸夕陽影志づんをいふに... 西つ通りして... 杖の老人... 手解作... 杖... 除る... 石と... と席に...

今... 生... 世... 他... 物... あ...



三 淺草北風人
芝乃花傳

秋の朔爽氣のさすまじけき。屈れきりに稻風人
 浅草のよりあまの身侍。庭に珊瑚琥珀の玉を付し
 了。是もあまの名いさきぬんとたのむ。吟詠の遺言は家
 小鳥とそよぎ。芳めは胡蝶は袖よりちあひの菊のか
 けりに吟詠とぞめ。あまの菊の菊はたけり。とぞめ。とぞめ。
 萬雨とてあまのけは。指の風流男。野介は。雪の雪衣
 とぞめ。あまのけは。の酒は。酔ひの。とぞめ。とぞめ。とぞめ。
 あり進。風の傳。とぞめ。あまの。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。
 歎。とぞめ。あまの。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。
 解神と歎あまの。びた。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。

秋の朔爽氣のさすまじけき。屈れきりに稻風人
 浅草のよりあまの身侍。庭に珊瑚琥珀の玉を付し
 了。是もあまの名いさきぬんとたのむ。吟詠の遺言は家
 小鳥とそよぎ。芳めは胡蝶は袖よりちあひの菊のか
 けりに吟詠とぞめ。あまの菊の菊はたけり。とぞめ。とぞめ。
 萬雨とてあまのけは。指の風流男。野介は。雪の雪衣
 とぞめ。あまのけは。の酒は。酔ひの。とぞめ。とぞめ。とぞめ。
 あり進。風の傳。とぞめ。あまの。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。
 歎。とぞめ。あまの。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。
 解神と歎あまの。びた。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。とぞめ。



四 白川葛男
 伯耆の異人

寛澹寂として。自塵事と云ふれ。垢とほまる。杉屋。
 遠のうらやりのたのまめい。赤男乃。賊のたす業。一。ま
 きつり。思れう。ふぢき。物とわろ。野山の風景を
 諷めて。たのげ。休ひ。あま。い。う。海。あ。つ。乃
 者。と。い。わ。れ。し。事。は。い。ま。い。さ。む。の。妻。へ。あ。ま。て。あ。ん
 と。ま。ち。草。庵。に。振。手。入。き。ん。男。語。り。て。い。ま。を。む。し。り
 い。江。戸。の。市。中。に。あ。り。い。か。式。月。片。田。食。ひ。て。山。家。乃
 ろ。り。越。通。り。に。年。れ。程。十五。六。斗。の。美。女。に。姉。妹。
 な。あ。ら。か。り。や。ま。い。な。靨。粧。な。が。い。ち。梅。か。い。と。り。と。さ。う
 や。る。る。物。と。抱。り。り。を。毛。多。ま。ま。と。い。亭。玉。あ。り。と。あ。

同日より猛火度くもて尺へ一程に。うら物くるを
しくなるもつ。むさうもなきがもとなりぬ。就しき者
なごよりい。都へい。なひ。業れ換ぐもつ。新加持
あどすきと更に中なり。一目位者に糸流侍りて病
乃事と神と互に物奉つ。返すおれ林の後に徘徊い
せも年々斗れは師のあり。しきむももて。星
のふたし。松葉かくと助てあり。いかなる人やんと不
れ者も同む。げ法師のいられ。はより。しきむもにあり。か
期の人よりを。松葉さく。業童にあえ。夕のま。こ
物さかす。せ。望男に。く。人皆けんを感して。食を
絶し。夜とつ。せ。更目。け。ず。い。か。あ。て。月。夕。と。医
は。と。あ。る。人。な。し。と。い。に。あ。し。き。者。あ。あ。と。お。ひ。て。ら

うらて。強。人。に。さ。う。さ。め。物。と。も。い。あ。事。は。ま。き。た。の。ま。き。と。自
れ。あり。て。就。し。き。者。な。ご。より。い。な。ひ。業。れ。換。ぐ。も。つ。新。加。持
あ。ど。す。き。と。更。に。中。な。り。一。目。位。者。に。糸。流。侍。り。て。病
乃。事。と。神。と。互。に。物。奉。つ。返。す。お。れ。林。の。後。に。徘。徊。い
せ。も。年。々。斗。れ。は。師。の。あ。り。し。き。む。も。も。て。星
の。ふ。た。し。松。葉。か。く。と。助。て。あ。り。い。か。な。る。人。や。ん。と。不
れ。者。も。同。む。げ。法。師。の。い。ら。れ。は。よ。り。し。き。む。も。に。あ。り。か
期。の。人。よ。り。を。松。葉。さ。く。業。童。に。あ。え。夕。の。ま。こ
物。さ。か。す。せ。望。男。に。く。人。皆。けん。を。感。し。て。食。を
絶。し。夜。と。つ。せ。更。目。け。ず。い。か。あ。て。月。夕。と。医
は。と。あ。る。人。な。し。と。い。に。あ。し。き。者。あ。あ。と。お。ひ。て。ら

五 魁極女 市谷案人

或日出洞乃月は有る世は有極とらん中よ。
時得ては大人の悲ひに極自すると思へて勇い
けみさごめかきまわりの身は極の幕張
る肉は産とすむまばあより皆思ふやまひてとて
たかかづぐ事大人がたす。さう眠きてんきば真
肉の煮まよこは結るに臓満えて産の外は泉をた
る産まよこ久況斎と刻きて酒哭と焼よめ
哥舞女の替く波がらしく唄かかすはたか
くられ男の編まゆりかたは長剣をひいて来
はがと振石尻をさすぶきにとあぬ風信は白

練の徳げかたは漢英の襷きうて三柏の紋付
と重しと色にまがりし時めあは羨席を
せしや行脇かたは体居りかた目と西劇
は月東流不倍比はひむしとすりお馴ぬあん
こまなげさ女は自巻のやうく身へしと抱
て娘は人よ琴の意とほりて徐子あてま
る歌の遠逃にいと嬉嬉と番風をとりと拂ひ影に
とまかりありさあ。若しよりかたは女とま
なてはそ辞絶多山かゆりけいなるやんと
くくん海津に極は大人のこころは使して極婦
年極なりしに月とて人ゆりて世は全五事
かし。も男の信とて花愛するやりに見へ



